

第16回  
神戸大学  
祭  
5/12016



K

# 躍動と模索

13 (木) ~ 16 (日)

## サークル発表

### 児童文化研究会

13 (木) 11.00  
講堂

人形劇「つるの飛ぶ村」 作・演出・前田 昭児

影絵劇「こがねの花」 作・谷垣内 俊央

演出・橋場 典弘

私達が、この大学祭で上演します人形劇、影絵劇は、いずれも私達の創作々品です。人形劇や影絵劇を観た子ども達が、それを楽しんだり、美しさに驚嘆したりするうちに、子どもらしい夢をのびのびと伸ばし、自由な創造を行なってくれ、さらにその中で、私達が子ども達に願っている事—こうなしてほしい、こう考えてほしい—を感じとってくれたらというのが、私達の文化財に対する考え方です。これにもとずいて、私達は研究活動をつづけています。

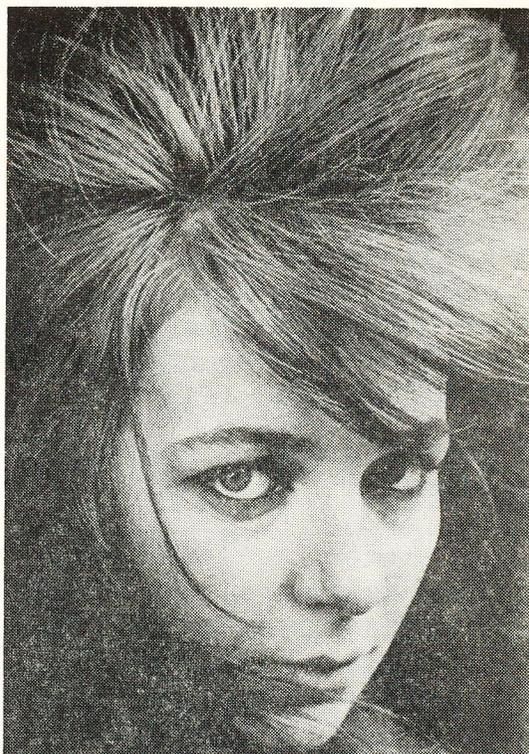
「つるの飛ぶ村」では、弱い人間一人一人の団結の重要性を、「こがねの花」では、労働の尊さと立身出世のむなしさを画いたつもりです。はたして、これらの作品から、それを子ども達が受けとってくれるかどうか、みなさまの、きびしい批判をお願いいたします。

### 神戸大学交響楽団

13 (木) 13.00  
講堂

#### 皇帝円舞曲

この曲は円舞曲と呼ばれたヨハン・ストラウス（彼は円舞曲の父と呼ばれた彼と同姓同名の作曲家ヨハン・ストラウスの子である）が1888年に作曲した曲であり、この曲はオーストラリア皇帝フランツヨーゼフ在位40年の祝典のために作されたためこのような名がついた。曲の構造はまず行進曲風な軽



快な調べで起り、チェロの独奏の単純なメロディーの経過の後、ワルツに入る。ワルツは4つの部分から成り立っているが、伴奏のリズムにウイーン独特のリズムが使われ、ウイナーワルツと言われる故縁もここにある。再びチェロの独奏がはじまり、やがて全合奏と共に曲は終結する。この曲は同種の他の音楽と比べると、音楽的に非常に優れたものであり、現在でも一流交響楽団によって、しばしば演奏されている曲の一つである。

#### ロザムンデ序曲

この曲は魔法を巧みに使うキプロスの女王ロザムンデを中心人物とする劇の序曲である。現在ではこの劇は全く行われることがなく音楽のみ演奏される。曲は $\frac{3}{4}$ の序奏に始まりやがて速いテンポの主題に入る。主題、副主題の反復の後 $\frac{6}{8}$ のコーダに入ってこの曲は終る。

#### 医学部グリークラブ

13 (木) 13.30  
講堂

小学生の詩による男性組曲、多田武彦作曲全日の小学生の詩を男性合唱組曲として、とりあげ親しめる作品で、全8曲をつづる。